

すすんで表現し、最後まで責任を持ってやりとげる子

河田 祐子

はじめに

S男は、公立小より小学部6年に転入して以来、本校での生活が4年を経ようとしているが、心身ともに大きく成長した姿が見うけられる。転入時、内向的で口数も少なかったS男は、日々の学習や生活の中で、友達を中心となって生き生きと活躍し、発音が不明瞭ながらも進んで自分の意思を伝えようとするようになった。また、身体面(図1)でも思春期を迎え、一まわり大きくなり、大人と同等の仕事も責任を持ってこなせるようになってきた。このように、将来の社会自立へ向けて歩みを続けているS男について、その経過を述べてみたい。

1 プロフィール

(1) 生育歴

- ・昭和52年1月1日生 14歳10か月 中学部3年生 男子
- ・言語障害、脳性小児麻痺後遺症
- ・公立小(心身障害児学級)より本校小学部6年に転入。平成元年度本校中学部に入学、現在に至る。
- ・家族は、両親、祖父母、兄、弟の7人。

(2) 諸検査による実態

- ・知能検査 IQ44(田研 田中ビネー H元10)
- ・発達検査

図2で示すからだの輪郭表では、7~8歳程度の発達を示し、遊び・運動面は11~12歳の段階に達している。粗大運動に比べ微細運動は苦手とするが、中1の頃に比べれば、かなり伸びが見られる。

(3) 行動特性

- ・道具の操作が得意で、友だちの先頭に立ち活動する。
- ・小学部の時にはまだ幼い感じを残していたが、第二性徴期を迎えた今では、精神的にも身体的にも大人らしい動きが多い。
- ・自分なりに意思を伝えようとするが、発音は不明瞭である。ひらがたと簡単な漢字を使って、慣れた文なら表現できるが、視写に頼りがちである。

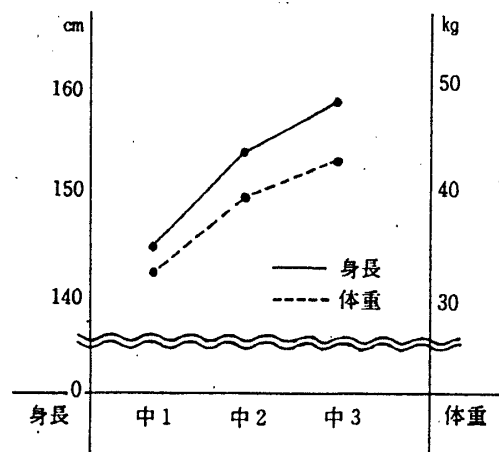


図1 身体の成長のようす

	0-1	1-2	2-3	3-4	4-5	5-6	6-7	7-8	8-9	9-10	10-11	11-12
粗大運動												
微細運動												
遊び・運動												
生活動作												
学習												
コミュニケーション												
身体機能												
発達												
年齢												

図2 からだの輪郭表

2 取り組みの構想

(1) 指導仮説

以上の実態をもとに、不明瞭ながらも自分から進んで誰にでも意思を伝えようとし、大人になりつつあるからだを十分に使って、最後まで責任を持ってやりとげる子を目指して、仮説を次のように設定した。



作業をするS男

個人目標 「すすんで表現し、最後まで責任を持ってやりとげる子」

つけたい力
 ・表現する力や生活意欲
 ・創意工夫する力
 ・自分なりに目標を持ち、最後までやりとげる力
 ・責任感

からだづくりの目標
 ・友だちや先生との関わりの中で、目標を持って最後まで力いっぱいからだを動かし、生き生きと自己表現をする子

指導仮説
 目標に向かって、大人になりつつあるからだを力いっぱい使うことは、身体全体のさらなる発達につながり、最後までやりとげることにより責任感も養われる。そして、友だちの中心となって活躍することで、リーダー性や優しさを育てることができる。また、書字力やはっきりと表現しようとする姿勢を身につけることは、明るく生き生きと人と接するS男へとつながると考える。

(2) 指導方針

- ① 目標に向かって、自分なりに目的意識を持ちながら活動させる経験を積ませる。自分でしっかり考えたり、ダイナミックに動いたり、細かい作業にじっくり取り組んだりする様々な活動の中で、自信や満足感を持たせる。
- ② 大人になりつつある姿を認め、任せられた仕事は最後まで責任を持ってやりとげさせる。
- ③ いろいろな人と話す機会を持たせたり、不完全ながらも文字で毎日表現させたりすることにより、話すこと書くことの抵抗をなくしていく。また、その素地となる呼吸法の改善にも努める。

3 指導の実際

(1) 運動場面

S男は、中学部へ入学して以来、屋内サーキット、屋外サーキット、合同体育、抽出養訓等で身体を改善し、鍛えてきた。その結果、図3でも分かるように運動能力は着実に伸びてきている。それは、次にあげるような姿にも表れている。

- ・屋外サーキットの鉄棒ぶらさがりで、自分で身体をゆらしながら、30秒間ぶらさがれるようになった。懸垂も1回できるようになった。
- ・合同体育のサッカーでは、チームのキャプテンとして、周囲の友だちの動きを見ながら、ボールを一番多くけり活躍した。シュートが上手に力強くできるようになった。
- ・水泳の学習で、2年生の夏には10m程の泳力しかなかったが、今年は、

下位検査名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
ビーズの糸通し	●																			
こぶし一掌	●																			
積木うつし	●																			
お手玉投げ	●																			
前屈リーチ	●																			
立ち幅跳び	●																			
往復走	●																			
体の位置変換	●																			
起き上がり	●																			●H.2.5
歩行板	●																			●H.3.9
片足バランス(開眼)	●																			
片足バランス(閉眼)	●																			
椅子の腕立て伏せ	●																			

図3 MSTB評価プロフィール

くり返し練習する中で呼吸の仕方が上手になり、20m泳げるようになった。20mを40秒位で泳いでいたが、プールおさめの日には、34秒で泳ぐことができた。



(2) 生活単元学習

生活単元学習を中心とする中学部の学習の中で、S男は得意とする道具を使用し、友だちの中心となって活躍する中で、最後までやりとげることの大切さを知り、友だちを援助する優しさを身につけ、生き生きと表現する力をつけていった。このような姿を、5月の「修学旅行」、6月の「野外炊飯」、7月の「臨海学校」の単元から挙げてみたい。

息つきしながら20m泳ぐS男

① 「修学旅行」での取り組み

題 材	取 り 組 み の 様 子	要 因
・校外学習で、プレイランドへ行く	・プレイランドで、お店の人に身ぶりを加えながら伝え、アイスクリームを買ってきた。 ・帰りにバスを待っている時、自分で郵便局へ行き、両替をした。	・自分の意思を伝えたい気持ち ・今までの経験
・修学旅行へ楽しく参加しよう	・汽車やバスの行き先の確認を積極的にしようとしていた。降りる場所が近づくと、先生や友だちに知らせようとした。 ・池田動物園でお金の残額を考えながら、ゲームや玩具を選んで楽しんだ。 ・高島屋のデパートで、ラーメン定食とクリームソーダを、自分で伝えることができた。お金を支払う時、おつりがいくらもらえるか分かっていた。	・行き先についての知識や関心 ・計算力と次への見通し


この行事は、昨年度から生徒達が待ちに待っていたものであり、事前学習でも外に出る機会を持ち、実際に交通機関や遊園地や食堂を利用し、生きた学習が数多く経験できた。S男は、身につけた生活力を十分に発揮し、次々と見通しを持って行動していた。店や郵便局へ進んで入り、買物や両替をしてくるなど、精神的なたくましさも感じた。

② 「野外炊飯」での取り組み

題 材	取 り 組 み の 様 子	要 因
・やきうどんづくりをしよう	・火の番を進んでし、材料を次々と入れ、さっさとかきまぜる。下級生がしたいと言えば、その時だけ快く代わってさせ、やり方の指示をしていた。	・キャプテンだという自覚
・コップを作ろう	・みんなの前で、竹を切ってコップを作り、手本を示す。彫刻刀を使って自分の名前を彫り始め、途中で万力を使う。飲み口はナイフで薄くけずった。	・道具使用 ・自分なりの工夫
・Tシャツにシルクスクリーン印刷をしよう	・油紙をシルクスクリーンの布地にくっつけるよう指示されると、アイロンを持ってどンドン当てていく。細かいところまで調べ、「ここ、いけん。」と言いながら、何度も当て直していた。	・今までの経験 ・責任感
・炊飯練習をしよう	・火をつける時、前回の失敗を考えたのか、初めに細い木をたくさん探してきたり、木を立てて空気が入りやすいようにしたりして、工夫をした。	・失敗の経験

この単元でS男は、過去2回の経験を生かし、様々な道具を存分に使って活動することができた。また、失敗しても自分なりに工夫し、何とか最後までやりとげようとする意欲が感じられた。また学部全体での学習場面では、上級生として下級生の世話をしなければ、という気持ちがあり、よく世話をしていた。

③ 「臨海学校」での取り組み

題 材	取 り 組 み の 様 子	要 因
<ul style="list-style-type: none"> ・「臨海学校」の話し合いをしよう ・船を作ろう <ul style="list-style-type: none"> ・10cmの厚さの板を切る。 ・電動ドリルで穴をあける。 ・のみを使ってくり抜く。 ・臨海学校へ行く 	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いになると、1番先に手を挙げ、「船を作る。」と発表した。 ・のみを使うくり抜き式に心が動き、決める。黙々と彫り取る作業を毎時間続けた。それでも、なかなか彫り取れず、朝の会までの時間や休憩時にも彫り続け、ようやく仕上げることができた。 ・男子の部屋で、下級生をよくリードし、シーツのたたみ方や次の行動を教えていた。 </div> <div style="flex: 1; text-align: center;">  <p data-bbox="778 745 1118 775">のみを使って船づくりをするS男</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の抱いていた希望 ・新しい道具(のみ)の使用 ・でき上がりを楽しみに粘り強く作業 ・上級生としての意識

S男は、この単元も2回の経験があるが、「船を作ろう」は、初めて取り組む題材である上、自分の希望が採り上げられたこともあり、新鮮な気持ちではりきって作業を始めた。のみの扱いにも慣れ熱心に作業を進めたが、容易にはくり抜けず、暇を見つけてはこつこつ彫り取っている姿が印象的だった。最後まで、彫り抜いたことは、大きな満足感と自信につながったのではないかと思う。

(3) 作業実習

6月下旬の校外作業実習で、S男は1人でバスに乗って作業所へ通えるようになった。この経験をもとに、夏休みには、昨年は3日間しか通わなかったが今年は14日間も通い、作業のむらも少なくなってきた。また、「600して帰る」「もうすぐバスの時間」など見通しを持って作業していた。

(4) ことばの力をつける

毎日の生活リズムにそって、挨拶、朝の会での日記の発表、学習での発言、帰りの会でのでき事の発表等、ゆっくりははっきり言うようくり返し指導を続けている。作文や日記が、よく分かるようになってきた。また、ひらがなはほぼ習得でき、次は漢字を覚えようと、進んでドリルをしている。しかし、覚えた文字を使っただけの表現は、まだ思うようにはできないが、「今日、テレビを見ました」のようなよく使う文ならひとりで書けるようになった。

4 考察と今後の課題

この3年間で、S男はすっかり身体が大きくなり、生活単元学習でのダイナミックな活動、家での田畑の手伝いや牛の世話等で、大人顔負けの力を発揮するようになった。粘り強く最後までやりとげようとする姿や働いてお金を得ることへの意欲も出てきており、職業化を中心とする高等部での生活の素地ができつつある。今後、社会自立へ向けて、自分の障害をどう認識し乗り越えていくか、どんな困難にも負けない心身をどう育てていくかが大きな課題だと思われる。これらのことを心に留めながら、今後も指導を続けていきたい。